人権・同和教育シリーズ㉗

地域人権教育指導員　**末永知恵美**

【問い合わせ先】
人権啓発・男女共同参画推進課
☎0968(25)7209

「原爆の図」を知っていますか？

【原爆の図】

「原爆の図」3部作（幽霊・火・水）は丸木位里・俊夫妻の作品です。原爆が投下された5年後に発表された、それぞれ縦1・8メートル×横7・2メートルの大作です。

位里の故郷・広島に「新型爆弾」が投下された直後、2人は広島入りし、救援活動を行います。そこで多くの死を目の当たりにし、「原爆をうやむやにするわけにはいかない。このことは描いて残さなければならない」との思いで作品制作に取り掛かります。

「原爆の図」は全国各地を巡回展示し、被害の状況をいち早く人々に伝える役目を担います。被爆直後の人間の肉体そのものと心の痛みに焦点を当て、人間の有り様を詳細に描いたその作品は、人々の心を揺さぶり原爆の破壊力の凄まじさを伝えました。戦争の愚かさを雄弁に語っています。

【沖縄戦の図】

その後、2人は6年かけて「沖縄戦の図」を完成させます。沖縄に展示したいという願いは、佐喜眞道夫さんが、佐喜眞美術館（沖縄県内初の私設美術館）を創立し、実現します。

私が中学校に勤務している時、修学旅行で「沖縄戦の図」を生徒たちに見せたいと考え、戦跡を巡る通常コースに加えて、この美術館を訪れました。生徒らとともに、壁一面の絵の前に座り館長の説明を聞きました。

苦痛に歪む人々の姿、もはや人の形を留めていない山と積み上げられた惨たらしい死体の数々が丁寧に描かれていました。

6年もの長期間、その事実と向き合いながら、ひたすら描き続ける忍耐力、戦争への憤り、平和への願いはいかほどだったでしょう。

6月23日「沖縄慰霊の日」

佐喜眞美術館の屋上からは、広々とした米軍基地で離発着する戦闘機が見渡せました。幅広の6段の階段に続いて幅狭の23段を上った先には、6月23日の夕日が差し込む正方形の窓がありました。

美術館の敷地内には、内部に大人が10人ほど入ることができる大きくて子宮をかたどった独特な形の亀甲墓があります。米軍基地・沖縄戦・亀甲墓と沖縄の歴史を象徴する美術館でした。

ちちをかえせ　ははをかえせ
としよりをかえせ　こどもを
かえせ
わたしをかえせ　わたしにつ
ながるにんげんをかえせ
にんげんの　にんげんのよの
あるかぎり
くずれぬへいわを　へいわを
かえせ

（「原爆詩集」峠三吉より）

終戦後79年になります。戦争を知る世代が減りつつある今、過去の教訓は生かされているのでしょうか。

農業委員会だより

【問い合わせ先】
農業委員会
☎0968(25)7235

農地中間管理機構（熊本県農業公社）が、農地の貸し手と借り手との仲介をし、農地を集積・集約化します

県農業公社は、農地を貸したい者（出し手）と農地を借りたい者（受け手）の間に入って、農地の貸借をお手伝いする公的機関です。農業経営の規模拡大、農地の集積・集約化を進めて生産性の向上を図ります。

出し手・受け手のメリットは、それぞれ次のとおりです。ぜひ、ご利用ください。

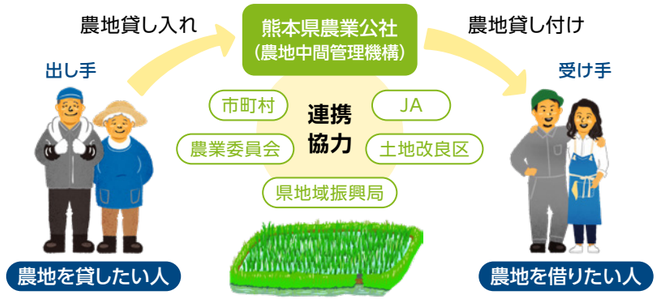
【出し手のメリット】

- 賃料は農業公社が受け手から徴収し、支払います。
- 貸した農地は、契約期間満了後に確実に戻ってきます（更新可能）。
- 相続税や贈与税の納税猶予が継続されます（税務署への届出が必要）。

【受け手のメリット】

- 出し手が複数でも、賃料は公社が一括して口座から引き落とすため、賃料支払の事務は不要です（振込手数料なし）。
- 分散した農地の集約化が可能となり、作業効率や生産性の向上につながります。

貸し借りの手続きは、農業委員会の窓口にて受け付けしています。詳しくは、熊本県農業公社（☎096(213)1237）、または農政課、農業委員会までお問い合わせください。



◆シリーズ◆

南北朝・菊池一族歴史街道⑭

【問い合わせ先】
菊池プロモーション係
☎0968(25)7223

◇福岡県小郡市

小郡市は、筑紫平野から福岡平野へ抜ける二日市地峡帯の南出口に位置します。南北朝時代には、南朝方と北朝方が雌雄を決した大保原合戦（大原合戦、筑後川の戦い）の舞台となりました。

今回は、合戦を題材にした作品と詩を紹介します。

大原合戦図屏風

菊池武光を中心とした南朝方が、逃げる北朝方の兵士を追う様子が描かれた屏風です。

作者は、御船町出身の日本画家・甲斐青萍です。大正・昭和の熊本日本画壇をリードした人物の一人で、歴史画に優れ、菊池一族を題材にした作品も多く手掛けています。

この作品がいつ作られたか定かではありませんが、小郡市松崎出身の郷土史家柳勇氏が熊本在住時（戦時中）に入手したもので、直接依頼して描かれた可能性も考えられます。

平成21年に合戦から650年を記念して小郡市へ寄贈され、現在は合戦の日（8月6日）前後に小郡市埋蔵文化財調査センターで公開しています（今年は8月12日㈪振休まで）。

◀戦いの激しさが伝わってくる「大原合戦図屏風」

大保原合戦

頃は正平秋の空　筑紫の野邊に風あれて
うつや太鼓の轟に　戦塵高く迷ふかな
敵は六萬、我四萬　衆寡如何でか敵せんと
いふことなかれ畏くも　我に錦の御旗あり

これは文学士・佐々木信香氏が書いた「大保原合戦」の一節です。

詩中に「あゝ星うつる六百年」とあることから、大保原合戦があった南朝正平14年・北朝延文4年（1359）の600年後、昭和34年頃に作られたと考えられます。

この詩は、小郡市周辺の小学校で騎馬戦の時などに歌われていたそうですが、今では耳にする機会はなくなりました。しかし、それが歌われていた時代があり、現在も懐かしむように口ずさむ市民がいることから、大保原合戦が身近な歴史であったことが感じられます。

地域おこし協力隊通信

地域の皆さんと交流を重ね、集落の魅力を探究

インスタグラム始めました!

vol.71 ‖ 集落魅力化コーディネーター
花牟禮 美月さん

今年4月から地域おこし協力隊として着任し、この3カ月間、菊池のいろんな場所を巡り、たくさんの市民の皆さんと知り合うことができました。

■御願立て奉納（赤星地区）

6月30日に赤星菅原神社で行われている、御願立ての神楽奉納を見に行きました。昔からの歴史を今もなお語り継ぎ、奉納していることが私にとっては素晴らしく、とても魅力的に感じます。赤星神楽連の皆さんには、神楽の装束の意味や舞の種類などを丁寧に教えていただきました。

■田植え

田植えの時期を迎え、私も滝黒仁田区、田島二区、原細永区で田植えのお手伝いをしました。平地から山まで田んぼが広がっている菊池でも、耕作放棄地が増えている現状にあります。そのような課題を住民の皆さんと解決していきたいと思っていますが、まずは自分が農業というものを知らなければいけないと思い、田植えをお手伝いしました。

今後も、たくさんの地区を訪れ、地域の皆さんのお話を聞きたいと思っています。ぜひ、「自分の集落でこんなことをやってみたい!」「私の地区ではこんな行事があるよ」など、ご連絡お待ちしています!

【問い合わせ先】地域振興課 ☎0968(25)7250